

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUPAC分科会 更新日 2009/6/30  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際純正・応用化学連合

(欧文) International Union of Pure and Applied Chemistry

(略称) IUPAC

日本学術会議加入年(西暦) 1919 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) International Union of Pure and Applied Chemistry

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Jung-Il Jin	Nicole J. Moreau	Nicole J. Moreau	David StC Black
(国)	Korea	France	France	Australia

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

2年毎に開催される総会(Council)において、副会長(次期会長)およびBureauのElected Membersの選挙を各NAOから派遣されるdelegatesによる投票で行う。また、任期に達したSecretary GeneralおよびTreasurerの改選も必要に応じて行う。候補者はNAO(日本は学術会議(IUPAC分科会))から推薦される。

加入国・地域の数 67 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

米国、日本、中国、ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、ベルギー、スペイン、韓国、インド、カナダ、オランダ、スウェーデン、スイス

国際学術団体のホームページURL <http://www.iupac.org/>

国際学術団体の年間運営経費 US\$ 1,826,313 (2006)

日本の分担予定額[事務局で記入] 4,559千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2009 August	45th General Assembly & Council Meeting	Glasgow, Scotland	5,000(予定)	100(予定)	
2009 June	9th International Conference on Heteroatom Chemistry	Oviedo, Spain			
2009 June	XVIIth RCCT	Moscow, Russia			
2009 June	32nd IVMTTC	Kazimierz Dolny, Poland			
2009 June	Frontiers in Polymer Science	Mainz, Germany			

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2009 April	87th Bureau Meeting	Bratislava, Slovakia	24	K. Tatsumi	
2008 March	86th Bureau Meeting	Istanbul, Turkey	22	K. Tatsumi	
2007 August	84th & 85th Bureau Meeting	Torino, Italy	23	M. Isobe	
2006 October	83th Bureau Meeting	Madrid, Spain	22	M. Isobe	
2005 August	81th & 82th Bureau Meeting	Beijing, China	23	M. Isobe	

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

1) Pure and Applied Chemistry (Monthly): Scientific Article & Recommendations	2)
Chemistry International (Bimonthly): News of the IUPAC	3)
Books (不定期): Recommendations of Nomenclature, Quantities, Units, Symbols	
4) Periodic Table (周期表) (年1回): 新元素、原子量等の更新	

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<b>国際機関等の提唱で行った活動</b>
1) 化学者・科学技術者を代表する世界で唯一の国際機関として、各国の学術団体および化学会と連携する。2) ICSU, ICSTI, UNESCO, CHF等の多くの国際機関に代表者を理事や委員として派遣し、国際的活動を共同で行う。
<b>国際機関等への提言等</b>
1) 国際連合とその下部組織であるUNESCOに対し、世界化学年(International Year of Chemistry)の2011年開催を具申し、2008年秋に認められる。この案件に関し、IUPAC Presidentが国連総長と会談した。2) World Chemistry Leadership Meetingを開催。
<b>国際事業等への参加・実施等</b>
1) 毎年30-40件程度の化学関連の国際学術会議を共催。2) 若手研究者の研究を支援するため、IUPAC Prize for Young Chemistsを創設。
<b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b>
1) 化学物質の命名法、化学表記法、化学定数の標準化に関する提言を行う。2) IUPACと連携し、新元素発見の優先権を決定3) 新元素の名前とシンボルを決定。4) 新たな化学研究動向を追跡調査する。5) 世界的な化学教育のプログラムを。6) 世界の温暖化および環境問題に対する提言を検討。7) CHEMRAWN会議を主催し、世界規模の諸問題を化学・化学工業の立場から検討。
<b>発展途上国への対応</b>
1) 途上国の化学教育の支援を継続的に行う。2) 途上国の若手技術者の育成を支援する。3) 途上国での国際学術会議の開催を支援。4) 途上国からのIUPAC総会等への参加を支援。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

化学は科学技術の中核をなしており、その国際組織であるIUPACの重要性は、今後さらに増すであろう。重要課題：1) 生物学および物理学との境界領域が発展する現状を鑑み、化学定数や化学測定方法の標準化を広範囲に行う、2) 文明社会の持続可能な発展に必要な資源・エネルギー・水・食料・環境等に関する提言を化学の立場から積極的に行う。
---

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
Bureau Member, President of Division II (Inorganic Chem.)	Kazuyuki Tatsumi	2008	
Bureau Member, President of Division III (Organic Chem.)	Minoru Isobe	2004	2007
Vice President	Kazuko Matsumoto	2006	2006
Burerau Member (Elected Member)	Hitoshi Ohtaki	1996	2003
Burerau Member	Junshi Miyamoto	1996	1999

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUPAC分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本化学連合	77000	
日本化学会	32000	<a href="http://www.chemistry.or.jp/">http://www.chemistry.or.jp/</a>
高分子学会	12000	<a href="http://www.spsj.or.jp/">http://www.spsj.or.jp/</a>
日本分析化学会	9000	<a href="http://www.jsac.or.jp/">http://www.jsac.or.jp/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUPAC分科会  
 所属分野別委員会 化学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
巽 和行	黒田 玲子	山内 薫	鎌田 正裕

会員数	連携会員数	特任連携会員数
4	7	2

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- 1) IUPACの活動への我が国の積極的な関与・貢献を促進。
- 2) IUPACへ派遣する委員候補の推薦
- 3) 2011国際化学年事業の支援
- 4) 将来のIUPAC活動を担う若手人材の育成
- 5) IUPAC活動に対する、産業界や学協会との連絡・調整

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2009/04/23-24 メール会議(全員参加)	1) IUPAC総会(グラスゴー)で行われる選挙に、Vice President候補者を推薦する案件について審議した。本案件を、日本学術会議化学委員会で決定するように依頼した。 2) その他
2008/12/23 日本学術会議6A会議室(8名参加)	1) 委員長、副委員長、幹事の選出 2) 第20期の活動報告 3) 45th IUPAC総会に関する事項 4) IUPACへの若手派遣について 5) COCI (Committee on Chemistry and Industry)の活動について 6) 世界化学年2011について 7) 国際委員会の対応について
2008/04/19 日本化学会会館(16名参加)	1) 海外派遣申請、Henry IUPAC会長の日本訪問、日本学術会議国際委員会ヒヤリングなどに関する報告 2) IUPAC 2010-2011年委員について 3) IUPAC規則・細則について 4) 世界化学年2011について

#### 日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IUPACは長年に亘り、世界の化学者・化学技術者を代表する唯一の国際学術団体であり、命名法や原子量に関する活動は広く知られている。日本化学会の単位・記号小委員会および原子量小委員会によってIUPACの提言資料が化学会員に定期的に配布されている。また、化学と工業でIUPAC活動が紹介され、無機化合物の命名法のIUPAC刊行本の翻訳が進んでいる。

#### 国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

1) 日本化学会をはじめとする多数の化学系諸学協会が連合した「化学連合」と連携して世界化学年2011の実行委員会を設立し、日本で化学年事業を積極的に推進する。 2) 日本化学会と連携して、IUPACの広報活動を進める。 3) IUPACの部門委員会と、日本化学会のディビジョン・分析化学会・高分子学会等との連携。

#### 特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本から約70名の化学者・化学技術者が、IUPAC組織の多くの部会や委員会に属して活発な活動を続けている。また、80名余がIUPACのFellowとして登録されており、日本のIUPACで存在感は強い。過去に会長を輩出し、Bureauに継続して人材を送り出している。今後、IUPAC執行部(Executive Committee)への関与をさらに強める必要がある。

#### 分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

IUPACへの日本の貢献度を高めるべく、様々な施策を検討・実行した。1) IUPACのBureau、部会、委員会への日本人委員候補を積極的に推薦した結果、現在、ほぼすべての組織に日本人が参画している。 2) 将来のIUPACを担う若手人材の育成を図るべく、Young ObserverのIUPAC総会への派遣を決めた。 3) 我が国の化学界のみならず、化学産業界への広報活動を活発化させるべく検討を行っている。 4) IUPACの将来ビジョンを検討する。